

私たちの施設は、都からの補助や介護報酬、利用者からの利用料等によって運営されています。

<特別養護老人ホーム>

施設名	特別養護老人ホーム ベル	施設番号	K 181
-----	--------------	------	-------

平成28年度における施設データ

総事業費（事業活動支出）	73,686,641円
人件費	158,566,013円
定員数	51人
利用者数（平成28年4月1日時点）	51人
常勤職員数（平成28年4月1日時点）	23人
非常勤職員数（平成28年4月1日時点）	8人

施設の収入（特別養護老人ホーム経営支援補助金の状況等）【平成28年度実績】

介護報酬	169,049,738円
その他利用料	23,470,196円

東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付額（都独自の運営費補助）		18,304,000円	
内 訳	基 本 分	①経営力の強化、良質なサービス提供が行える体制の構築	982,000円
		②利用者の健康管理の強化及び生活施設としての専門性の充実	
		③ボランティアの受入れと地域交流の促進	
		④利用者の在宅復帰策の支援	
	⑤施設整備等に係る経費の補助（施設振興費）	0円	
	⑥評価加算（「医療対応強化支援加算」及び「努力・実績加算」）	4,042,000円	
	⑦第三者評価の受審・サービス向上に向けた計画策定	第三者評価又は利用者調査	200,000円
	⑧その他加算（小規模施設加算等）		13,080,000円

※この様式は、「平成28年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、閲覧を希望する方に公開しています。

「福祉サービス第三者評価」を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	特別養護老人ホーム ベル		施設番号	K 181
項目	前年度の評価結果に基づく現状分析 (平成28年度)	改善計画 (平成28年度末時点)	実施状況(予定を含む) (平成29年4月30日時点)	
職員の定着に向けた取り組みについて	<p>全体の研修計画を立て、一人ひとりに詳細な研修計画を立てているが、人員配置の現状などもあり、実際に職員、施設が望む研修を十分行えていないことは残念な点である。現場の課題として採用した職員の定着があり、この点をクリアすることで、研修に限らず、人事・組織面における現状の諸課題により影響が出ると考えられる。定着に向けた取り組みを強化していくことを期待したい。</p>	<p>年度当初の目標設定の際、研修希望を上げさせており、施設として学習させたい項目と本人の希望による内容の2種類を設定するようにしている。昨年度は現場の職員数が安定せず、人員不足から外部研修に職員を参加させることが困難な場合が多かった為、定期採用や早期の欠員補充をはかり、安定した人員体制を保つことで参加を促していく。又、外部研修だけでなく、施設内研修の充実をはかることで、意欲の向上やスキルアップを目指し、やりがいを見いだしていくことで職員の定着につなげるよう工夫していく。</p>	<p>① 実施済み</p> <p>2 実施予定(平成 年 月ごろ)</p> <p>具体的には以下のとおりです。 施設より、本人希望に添った研修案内を行い、外部研修に積極的に参加できる機会を設けるよう努めている。職員も研修参加には意欲的であり、自身のモチベーションアップに役立っている。人員については、早朝及び夕方の短時間パート職員を確保し多忙な時間帯での人員体制を手厚くするとともに、派遣から正職員への登用を実施するなど、職員定着に向けた取り組みを行っている。今後、口腔ケアや看取りについての施設内研修も予定しており、職員のスキル向上に取り組んでいく。</p>	
中期計画の実行について	<p>平成27年度から29年度の中長期計画の策定を行い実施している。、地域事業環境の変化や小規模社会福祉法人の特性、内部環境をふまえ、戦略に基づく計画の策定を期待したい。</p>	<p>年度末の段階で27～28年度の中長期計画を策定済みである。前3カ年の中期計画の内容をふまえ、各セクションにおいて未実施であった項目や継続実施課題、又次期にむけての新たな取り組みなどを洗い出し、各部門において詳細を分析しながら計画を策定している。主にサービスの質の向上や人材育成、看取りケアへの取り組みと稼働率向上による経営の安定化などを柱とし、具体的な目標設定を掲げた計画となっている。</p>	<p>① 実施済み</p> <p>2 実施予定(平成 年 月ごろ)</p> <p>具体的には以下のとおりです。 四半期毎に各セクションにおいて実施進行状況を確認しながら、進捗状況を把握しつつ適宜修正を加えている。看取りケアについては委員会が、基本的な仕組みについて策定すると共に職員に対する研修も随時行い、計画どおり実施されている。今後の稼働率向上に向けて看取りへの取り組みが効果をあげられるよう期待される場所である。</p>	
認知症対応について	<p>認知症の利用者には傾聴を心がけることや見守る姿勢での支援等を行っている。内部研修では高齢者の身体機能や燕下等の研修は行っているが、認知症に関する研修は実施されておらず、今後も認知症の利用者は確実に増えることが予測できるため、定期的、継続的な専門研修を計画の中に取り入れて実施することを期待したい。</p>	<p>施設内研修において認知症関連の研修項目を設定すると共に、東京都の認知症ケア実践者研修などを活用し、受講者による施設へのフィードバック研修を実施することで、職員の認知症への理解と知識の向上を図っていく。又、外部研修等への参加も積極的に推進し、施設内での研修発表会等にて報告することで情報の共有と認知症高齢者ケアへのさらなる意識付けを行っていく。</p>	<p>① 実施済み</p> <p>2 実施予定(平成 年 月ごろ)</p> <p>具体的には以下のとおりです。 一部職員に認知症関連研修に参加させ、職員会議において研修発表会の位置づけで、他の職員にもフィードバックを行った。東京都の認知症実践者研修は参加者数に限りがあり、受講枠からはずれてしまうことが多いが、今後も継続して申し込みを行っていく。又、その他の認知症関連研修についても積極的に案内を行い、職員のスキルアップに貢献できるよう努めていく。</p>	

※この様式は、「平成28年度東京都特別養護老人ホーム経営支援補助金交付要綱」の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。